

学校関係者評価（令和５年度）

- 1 実施日 令和6年2月21日（木） 16:00～17:00
- 2 参加者 長田美沙子 委員，土橋守 委員，内藤和久 委員，
江間新也 委員，鷹野浩文 教頭，濱田幸一郎 教務主任
- 3 話し合いで出されたご意見

〈学校経営について〉

- ・児童が自らめあて（目標）を持つことは難しいので，日常から具体的な長期目標や短期目標を設定し，それに向けて頑張ろうという気持ちを持てるよう，学校・学級で継続的に支援している。学校行事や普段の学習，生活の場面において，具体的な目標設定をすることで，自ら目標を立てやすくなり，主体性も養われてくる。授業においては毎時間「学習のめあて」を提示し，活動後，ふり返りやまとめをすることを豊富スタンダードとして実践したり，長縄跳びのクラス目標を決めて，全校で高め合ったりした。「児童がめあてをもって生活すること」について保護者の数値が低めなのは，児童の学習の成果等が見えにくいという事が挙げられた。学校からの情報発信がまだ少ないのも一つの要因であり，今後，日々の学習の様子を分かるようにするために学習感想の記述等をさらに増やし，保護者に見える化していく事で家庭での認知がさらに可能になるのではないかと，情報共有・共通理解が図られた。
- ・昨年度に引き続き，学力向上のためにＩＣＴ機器の利活用を校内研で研究している。3年前は家庭学習について研究をし，家庭を巻き込んで学習習慣が身につくようにしていた。家庭学習について，保護者にとって不明なところがあるので，どのような取り組みをしているのか発信していく。

〈評価項目に着目して〉

- ・児童会活動の充実に関する項目から，評価が低い児童が散見されるのは日常活動の充実感による影響もその要因と考える必要があり，行事等の精査や再開に伴い，児童と共に日々の丁寧な取り組みの大切さを認識しながら取り組んでいく。
- ・今年度，5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行され，出来る限り学校行事等をより多くの方にご参加いただけるよう実施方法を工夫してきた。学校行事や授業参観，学校開放日において，学校運営協議会員，民生委員の方々等，可能な限り参観していただき，学校の様子についてご意見をいただいた。学校からも随時参加の呼びかけを行ったので，学校や児童の様子を直接見ていただく機会が増えた。
- ・ＰＴＡ活動の重点的に取り組む項目の一つである校内や地域の方への「あいさつ」が少しずつではあるが定着してきている。保護者に知ってもらい，家庭でのあいさつ力を高め，相手に対して気持ちのいいあいさつができるよう学校でも取り組みを続けていく。

〈総合的に〉

- ・平均値が3より低い項目が昨年度よりも少ないので全体的に見て良い評価だと言える。しかし，3者の評価の違いや，全体の評価が高い中，低い評価を付けた児童がいるということも見逃さずに注視して対応していきたい。
- ・保護者への丁寧な情報提供の方法を今後も工夫していく必要がある。児童の活動の様子，学級の様子等を具体的に発信し，児童の成長の様子を共有していけるとさらによい。
- ・保護者の意見を真摯に受け止め，改善に向けて取り組む姿勢を継続していく事が大切である。